

平成19年度研究の概要

1 研究主題

学ぶ喜びを味わい，自ら学びを創造する子どもの育成
～生活科・総合的な学習の時間における問題解決的な学習の取り組みを通して～

2 主題設定の理由

学校教育目標

明るく かしこく たくましく
具体目標 / 自分らしく輝く子どもの育成

今日的課題

(1) 子どもの現状

- ・覚えることは得意。しかし学習が受け身で自ら調べ判断し，自分なりの考えをもち，それを表現する力が不十分。(教育課程実施状況調査から)
- ・知識や技能を実生活で活用する力も国際的に見て上位。しかし，「宿題や自分の勉強をする時間」が参加国中最低。(PISAから)
- ・授業の理解度，満足度共に学年が上がるにつれ低下。(学校教育に関する意識調査)

(2) 身に付ける力(学習指導要領から)

生きる力...確かな学力，豊かな人間性，健康と体力。

確かな学力...知識や技能はもちろんのこと。これに加え，学ぶ意欲や自分で課題を見付け，自ら学び，主体的に判断し，行動し，よりよく問題解決する資質や能力等。

本校の課題

- ・勉強が分かりやすく楽しいと答えている子どもの割合は全県から比べると高い数値を示したが，学年が上がるにつれ，その数値は減少傾向にある。
(保護者と子どもによる「授業評価」と「平成18年度学習状況調査」から)
- ・発表会などの表現する活動は楽しいと答えている子どもの割合が大きいですが，自分たちで思考し，問題を解決をする活動では，その割合が小さく，課題提示の仕方などを引き続き工夫していく。
(保護者と子どもによる「授業評価」から)
- ・体験的活動を楽しみながら，子どもたちは主体的に活動する力をつけており，総合的な学習の時間や生活科を中心に全教育活動を通してより積極的に意図的に体験活動に取り組む。
(研修会議から)
- ・各学年で総合的な学習の時間や生活科によく取り組んできた。しかし，学年間で内容や活動が一部重複していたり，教科との関連の認識が不十分であったりしたため，本校の総合的な学習の時間の単元の修正と再考が必要である。
(校内授業研究会から)
- ・子どもたちの学習への意欲や関心に対して学級差があり，学級経営が学びの基盤となっており，学級経営の充実を図る。
(本校の「学校教育に関するアンケート」から)



研究主題

学ぶ喜びを味わい，自ら学びを創造する子どもの育成
～生活科・総合的な学習の時間における問題解決的な学習の取り組みを通して～

3 研究主題・副題について

(1) 研究主題について

「自ら学びを創造する」とは・・・

目的や目標をもって子どもたちが主体的に学習することである。自らの課題を解決する子どもの姿を授業の中に求め、自分に必要とすることを自学する子どもの姿を普段の中に求める。そうして、自分で自分の生き方、将来を創るための力を身に付ける子どもの姿である。

「学ぶ喜び」とは・・・

これまで、私たちは実態から子どもに求めることを研究主題に設定してきた。しかし、そこに子どもの願い、思いはあるだろうか。子どもが学びに求めていることは何か。それを知ることが学びを創造する子どもたちの育成には不可欠であると考えた。子どもたちは学ぶ喜びを味わうこと、つまり、「勉強はおもしろいな」「勉強は楽しいな」と実感することを求めていると私たちは考えた。学ぶ喜びの経験なくして、どうして学ぼうという気持ちになるのか。学ぶ喜びを味わうことこそが、自ら学びを創造しようとする原動力であるととらえる。

さて、子どもたちは、どんな時に学ぶ喜びを感じるのだろうか。私たちは、学ぶ喜びには、二つの場合が考えられるように思う。一つは、「勉強が分かるようになった。」「できなかったことができるようになった。」という学びの結果として、子ども自身がその成果を得たときである。二つめは、学習活動そのものが楽しい場合である。例えば、体験活動やゲーム性をもたせた学習活動を子どもたちは大好きである。

しかし、私たち教師は、この二つの喜びについてもっと吟味してみる必要がある。まず「分かった」「できた」の質を問わなければならない。教師主導で教えた結果「分かった」「できた」喜びなのか、子どもが問題意識をもって、調べたり、考えたりした結果なのかということである。それは、二つ目の学習活動のあり方にもかかわってくることである。体験活動やゲーム性をもたせた学習活動を含めて、私たちは、学習過程全体を通して子どもたちの学習活動を見直してみななければならない。

私たちは、学習過程のそれぞれ（課題づくり、調べる、まとめる、発展）で子どもの学びの喜びを明らかにするために学習過程における子どもの姿をとらえ直す。つまり、子どもたちの学びの道筋について考えていきたい。

(2) 副題について

学習指導要領では、「生きる力」として子どもたちの主体的な学びの力、いわゆる「問題解決能力」を重視している。問題解決的な学習はその問題解決能力を高める学習方法である。つまり、問題解決的な学習は、子どもが自ら学び、自ら考える自発的な学習や学習意欲を重視し、本研究主題に資するものである。総合的な学習の時間は、問題解決能力の育成を意図して設置された領域であり、本校では総合的な学習の時間を中心に問題解決的な学習に取り組むことを通して本研究主題に迫る。

また、生活科では「気付き」「発見」「感受性」を培い、それらは総合的な学習の時間に取り組む上での基盤となる学習能力であるととらえ、低学年では生活科に取り組み、本研究主題に迫る。

4 研究の仮説

1

地域の環境を素材にし、地域を活動の場とした問題解決的な学習を行うことによって、子どもたちの知的な好奇心が高まり、学習への動機付けや学習の深化・発展が図られ、学ぶ喜びを味わい自ら学びを創ろうとするのではないか。

研究の重点 生活科・総合的な学習の時間の問題解決的な学習プログラムの構築

- ・地域の特性を生かし、各学年の発達段階に合った単元の作成
- ・地域や専門機関との連携（人材の活用）
- ・意図的、計画的な体験活動

2

子どもの内発的な学習意欲を喚起するような課題づくりや課題提示の仕方を工夫することによって、問題を解決したいという学びへの動機付けがなされ、子どもたちは自ら学びを創ろうとするのではないか。

研究の重点 学習過程の導入段階のあり方

- ・体験的な学習の設定
- ・発問の工夫
- ・教材・教具の工夫

5 学びの姿について

(1) 学びを支える子ども姿

- 情意面
- ・周りの人から受容されている気持ちの子ども
 - ・自分は ができるんだという気持ちの子ども
 - ・自分に関することは、自分で決定する気持ちの子ども
 - ・勉強は楽しいという気持ちの子ども
- 行動面
- ・少し難しい問題に挑戦する子ども
 - ・できるだけ自分の力で問題を解決しようとする子ども
 - ・問題を解決するためや新たな問題を発見するために、いろいろな情報を収集しようとする子ども
 - ・友達から学ぼうとする子ども
 - ・学んだことを自分の生活や将来に生かそうとする子ども

(2) 学びの過程と子ども

学びの過程を考える上で重視する事柄

- ・学習活動に3つのEをバランスよく、計画的に位置付ける。

探究

Explore

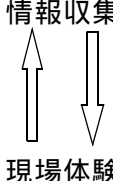
表現

Express

交流

Exchange

本校で考える学びの過程における子どもの姿

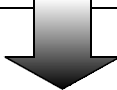
学習過程	子どもの姿	教師の支援	子どもの反応
つかむ喜び	課題・問題をつかむ。	・ 知的好奇心を刺激し動機付けを図る。	なぜだろう。どうしてだろう。 について調べたい。 わたしも してみたい。 って、おもしろい。
調べる喜び Explore Exchange 情報収集  現場体験	解決への道筋が見える。	・ 解決への欲求を醸成する。 ・ 協力して活動するよさを実感できるようにし、親和の気持ちをはぐくむ。	こうやって調べてみよう。 自分で解決してみせるぞ。 なるほど、 なのか。 をしたら、 になるだろう。 わたしの考えを聞いてくれた。 したらいいよ。
まとめる喜び Express Exchange 思考  報告	学びが見える。	・ 有能感・達成感を醸成する。 ・ 共通点と相違点の認識から他者受容の気持ちをはぐくむ。	が分かった。分かってもらえた。 ができるようになった。 をやりとげた。 みんなに知らせよう。 しょうずに伝えられたぞ。 同じことを考えていたんだな。
広がる喜び	あらたな課題・問題がわかき上がる。	・ 挑戦への気持ちを刺激する。 ・ 有能感や達成感を全体での共有化を図る。	をもっと調べてみたい。 なぜだろう。どうしてだろう。 さらに したらどうなるだろう。 もおもしろそうだ。

6 研究の方針

- ・ 授業を通して研究の仮説の検証を図る。二つの研究の仮説については、研究主題である「学ぶ喜びを味わい、自ら学びを創造する子ども」に基づくものであり、さらに研究の仮説1については、本校が共通して取り組む総合的な学習の時間と生活科に係るものである。
- ・ 総合的な学習の時間「風の子学習」で、地域を生かし、各学年の発達段階にそった単元を作成する。
- ・ 授業力の向上を図る。
ミニ授業提示...全員。本人の希望する各教科等。
指導案は、簡略化する。全体協議会はなし。
校内授業研究会...総合的な学習の時間、生活科は各学年1回提示する。
- ・ ホームページを随時更新し、地域・保護者への情報発信を積極的に行う。
- ・ 学級づくり推進委員会と連携して研究を進める。

- (5) 全体研修会... 全職員で構成する。
 研究推進委員会から提案される内容について検討・協議する。
 各学団・学年部，専門部の取り組みについて報告し，共通理解を図る。

8 年次計画

<p>平成18年度 1年次</p>	<p>子どもたちの学びの道筋について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習過程の各段階における学ぶ喜びについて明らかにする。 課題づくりと課題提示に焦点を当てて授業を行う。 ・ 教科との関連を図りながら，地域を生かした総合的な学習の時間のテーマと内容を作る。 ・ 家庭学習の充実を図る。
<p>平成19年度 2年次</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>子どもたちの学びの道筋について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習過程の各段階における学ぶ喜びについて明らかにする。 課題づくりと課題提示に焦点を当てて授業を行い，授業力の向上を図る。 ・ 平成18年度に実践した総合的な学習の時間の単元と内容について修正と改善を図り，地域を生かした本校の総合的な学習の時間の単元を作成する。 ・ 基礎的な学習態度（家庭学習習慣と読書習慣）の形成を図る。 ・ 学級づくり推進委員会と連携し研究を進める。
<p>平成20年度 3年次</p>	<p>子どもたちの学びの評価について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの学ぶ姿を確かにとらえ，その喜びを醸成する評価のあり方について明らかにする。 どのように評価し，学びに生かすかについて焦点を当てて授業を行う。 ・ 総合的な学習の時間の単元の見直しと改善を図る。 ・ 本校の総合的な学習の時間の評価方法を明らかにする。 ・ 基礎的な学習態度（家庭学習習慣と読書習慣）の形成を図る。

